

令和5年度第2回企画展

# 吉村昭の手紙

—Letter from Akira Yoshimura—

人間によくも文学と云ふ仕事を与へてくれたものです



不思議な一夜です。ただ一人で酒を宿房の部屋で飲んでいます。  
語る人もなく、テレビもない。新聞もない。  
そんな雰囲気なので、久しぶりに貴女に手紙を書きます。

令和6年 3/16<sub>sat</sub> → 5/15<sub>wed</sub>

開館時間：9時～20時30分 休館日：3月21日(木)・4月18日(木)  
入館料：無料 会場：ゆいの森あらかわ 3階 企画展示室



詳細はこちら



〔吉村昭写真〕撮影 小澤忠恭(昭和60年6月14日撮影) 〔右上写真〕吉村昭と津村節子の往復書簡より(津村節子氏蔵)  
〔引用文〕吉村昭 津村節子宛書簡(津村節子氏蔵)(左)昭和27年頃(右)昭和52年8月6日

吉村昭記念文学館

# 吉村昭の手紙

吉村昭(1927~2006)は、徹底した取材と調査を基に、短篇から長篇まで、多岐にわたる題材を掘り下げ、人間の本質と時代の真実を探求しました。妻で作家の津村節子と交わした180通以上の往復書簡には、小説家としての揺るぎない志と、家族への深い愛情が綴られています。

本展では、これらの往復書簡と関連する収蔵資料を中心に、敬愛する作家、ドラマ化された作品に主演した俳優、取材・調査を行った人物、編集者に送った手紙を紹介します。手紙、だからこそ伝えられた言葉の数々から、作品執筆の背景と、吉村の魅力に迫ります。



吉村昭と津村節子 井の頭公園で  
津村節子氏寄託資料



吉村昭と津村節子の往復書簡  
昭和26年(1951)、学習院大学文芸部で出会い、結婚後も手紙を交わした。  
津村節子氏蔵



吉村昭 緒形拳宛書簡(昭和59年~61年、平成6年)  
緒形は吉村原作のドラマ「破獄」(NHK 昭和60年)に主演。  
緒形への信頼やドラマ化に対する思いなどが記されている。



吉村昭 木村盛武宛書簡  
(昭和49年~64年、平成4年~17年)  
吉村は、木村盛武(当時旭川営林局  
林務官)がまとめた「獣害史最大の  
惨劇 舌前熊事件」(昭和39年)を調  
査し、「黒嵐」を執筆した。

## I 手紙にみる執筆の背景

主な作品 「殉国」「黒嵐」「海も暮れきる」

「冷たい夏、熱い夏」「破獄」「天狗争乱」

主な書簡：木村盛武宛(「黒嵐」)、緒形拳宛、取材した刑務官からの手紙  
(「破獄」)(津村節子氏寄託資料)、佐多稲子宛、安岡章太郎宛、丸谷才一宛  
(日本近代文学館蔵)

## II 敬愛する先輩作家への想い

石川利光 白井吉見<sup>1</sup> 高見順<sup>2</sup> 中山義秀  
丹羽文雄<sup>3</sup> 八木義徳<sup>4</sup>

<sup>1</sup>白井吉見文学館蔵 <sup>2</sup>日本近代文学館蔵 <sup>3</sup>四日市市立博物館蔵  
<sup>4</sup>町田市市民文学館蔵 他は津村節子氏寄託資料

## III 津村節子と交わした往復書簡

夫婦作家の軌跡、愛する家族へ

## IV 書齋に遺された手紙

作家たちから届いた手紙

## Special 吉村昭さんへ…届けたい言葉

当館朗読会の出演者、また吉村作品の愛読者である皆様から届いた寄稿(パネル)と直筆の手紙(一筆箋)を展示します。

赤江珠緒氏(フリーアナウンサー) 竹下景子氏(俳優)  
津田寛治氏(俳優) 橋爪功氏(俳優) 平松麻氏(画家)  
山崎直史氏(TBSテレビ報道局)

## 展示図録

※販売方法等、詳細はホームページをご覧ください。

### <特別寄稿>

吉村司氏(吉村昭 津村節子夫妻ご子息)  
鶴岡哲夫氏(読売新聞編集委員)  
澤田瞳子氏(作家)  
平原一良氏(公益財団法人北海道文学館  
理事長)

## イベント情報

参加費無料

### 1 朗読とトーク

津田寛治氏による朗読です。トーク(約10分)も行います。

### 津田寛治が読む「破獄」「果てなき便り」

日時：3月20日(水・祝) 14時~15時45分

(開場13時30分) ※途中休憩あり

出演：津田 寛治 氏 (俳優)

朗読作品：①吉村昭『破獄』(昭和61年 新潮文庫)より

②津村節子『果てなき便り』(令和2年 文春文庫)より

会場：ゆいの森あらかわ 1階 ゆいの森ホール

参加費：無料

定員：120名 応募者多数の場合抽選

※当選者のみ3月14日(木)までにハガキでお知らせします。

### ●申込み方法

申込み期間：2月11日(日)から3月3日(日)まで

受付：ゆいの森あらかわ1階総合カウンター、ゆいの森あらかわHP

「イベント」欄から、またはFAX(03-3802-4350)

必須事項：①参加者氏名(2名まで)、代表者の郵便番号、住所、電話番号

②当館「友の会」会員は「友の会会員」と明記してください。



ゆいの森  
あらかわHP



津田寛治氏



### 2 参加型イベント

#### ①吉村昭へ、あの人へ…今、贈りたいメッセージ

企画展示室前に設置の用紙に吉村昭や津村節子、心に浮かぶあの人へ贈りたいメッセージを書いて応募してください。

#### ②私の心に残る吉村昭~#吉村昭の手紙~

ゆいの森あらかわX(旧Twitter)に投稿の「私の心に残る吉村昭」を引用リポストし、「#吉村昭の手紙」をつけて、本展の感想や好きな吉村作品タイトルを投稿してください。

#### グッズのお渡し(先着順)

ゆいの森あらかわ1階総合カウンター ※先着順

①はスタッフにお声かけください。

②は投稿画面をスタッフにご提示ください。

①②共に会期中、本展会場で掲示、また当館広報紙に掲載する場合があります。お名前掲載はありません。

オリジナル  
メッセージカードを  
プレゼント!!

## 吉村昭記念文学館

〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目50番1号(ゆいの森あらかわ内)  
TEL.03-3891-4349 FAX.03-3802-4350  
<https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp>

都電荒川線荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)下車徒歩1分

東京メトロ千代田線・京成線町屋駅下車徒歩8分

コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ下車(土日祝のみ)